

2018年9月21日

平成30年度9月 学位記授与式学長告辞

九州工業大学長 尾家祐二

本日、ここに学位記授与式を挙行できますことは、本学にとりまして大きな喜びであります。栄えある門出を迎えられました皆さんに、まずもってお祝い申し上げます。また、この日まで修了生を物心両面から支えられました御家族や関係者の皆様のお喜びもひとしおと、衷心よりお祝い申し上げます。

この機会に、本学とも関わりがある、ある方を紹介したいと思います。それは、昨年ノーベル文学賞を受賞されましたカズオ・イシグロ氏です。彼のお父様である石黒鎮雄氏は、本学の前身である明治専門学校に入学され、まさにこの地で学ばれました。1943年に卒業し、1960年には海洋研究者として一家で英国に渡りました。それらのことも大きく影響し、世界的な文学作品が生まれたのではないのでしょうか。学び、考える意志が人から人に繋がり、多様な知が生まれていくことの素晴らしさを改めて感じます。

ここでは、このようなご縁を嬉しく思い、受賞をお祝いしたいと思うとともに、ノーベル賞記念講演におけるその内容が私たちにとっても大切な事柄を含んでいると思い、その一部を紹介します。

カズオ・イシグロ氏は、この講演において、科学技術についても触れています。「科学技術や医療の分野で従来の壁を破る発見が相次」いでいるとともに、「そこから派生する脅威の数々が、すぐそこまでやってきている」ことを指摘し、ゲノム編集技術である CRISPR や人工知能、ロボット技術の進展に言及しています。CRISPR は、専門家にとっても、想像していた以上に、容易に遺伝子を操作できる技術であり、農作物や家畜の品種改良だけでなく、遺伝子治療などヒトへの応用も可能であると言われていました。人工知能やロボット技術は、皆さんご存知のように、人間をサポートするだけでなく、人に代わって仕事を担うこともでき、人の能力を超えるような機能も備えつつあります。イシグロ氏は、それらの技術は、利益をもたらすと同時に、行き過ぎた能力主義社会や大量失業時代を招くかもしれないと警告もしています。彼は、それに対し、文学の領域についてですが、「不確かな未来に私たちが何か意味ある役割を果たしていくつもりなら」、「私たちはもっと多様にならなければ」ならないと述べています。私たち工学者、技術者はどうでしょう？ 私たちも同様に、不確かな未来に必要な多様なアイデアや技術を生み出すために、「心をオープンに保ち、現れてくる最良のものを祝福し、育く」んでいくべきではないのでしょうか。

多様性が重要であることについては、様々な指摘があります。ノーベル経済学賞受賞者であるアマルティア・セン氏は「アマルティア・セン講義—グローバル化と人間の安全保障」(ちくま学芸文庫)の中で、「過去数千年にわたる世界の進歩は、交易、旅行、思想・知識・芸術・文化の拡散を促すグローバルな相互作用活動によって形成され」たことを指摘しています。

今後、皆さんが関わり創り出す技術は、様々な社会活動の基盤になり、広く社会に影響を与えることとなります。皆さんには、是非、人、組織等の多様性を再認識し、多様な知を集め、学び、今の世界から謙虚に未来を想像し、そして明るい未来を選択することで、その実現に関与して欲しいと思います。

最後になりますが、皆さんが、九州工業大学における多くの良き出会いを財産として、今後活躍されますことを祈念し、皆さんの栄えある門出を心から祝福申し上げ、告辞と致します。本日は、誠におめでとうございます。

参考資料

・カズオ・イシグロ ノーベル文学賞記念講演「特急 20 世紀の夜と、いくつかの小さなブレークスルー」(土屋政雄訳) 早川書房刊

・英文 Nobel Lecture by Kazuo Ishiguro

https://www.nobelprize.org/nobel_prizes/literature/laureates/2017/ishiguro-lecture_en.pdf